

第一問題

31点

問2			問1									
(11)	(6)	(1)	(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
欠画	渴筆	書聖	文字の輪郭をなぞり、その中を墨で埋める(填める)こと。	書画の署名、押印と共に、作品依頼者の氏名を書くこと。	王羲之を大王、王献之を小王と呼び、この親子二人を合わせて二王と呼ぶ。	臨書で培った手本の筆意や結体をもとに、作品を仕上げること。	起筆の際、穂先が線の外側に現れる書き方。	書に必要な用具・用材のうち、筆・墨・硯・紙のこと。	人差し指と中指の二本を筆管に掛けた筆の持ち方。	二文字以上を続け書きすること。	隷書の種類。装飾的な要素をもった波磔を強調したもの。	古人の優れた書を石や木に刻して拓本に採り、手本や観賞用として帖仕立てにしたもの。
	(7)	(2)										
	説文解字	懐紙										
	(8)	(3)										
	背勢	千字文										
	(9)	(4)										
	三蹟	瓦当										
	(10)	(5)										
	書風	臨池										

1点×11

2点×10

第二問題

12点

サ	カ	ア
印稿	男手	甲骨文
シ	キ	イ
補刀	草仮名	金文
	ク	ウ
	女手	大篆
	ケ	エ
	落款	小篆
	コ	オ
	印泥	万葉仮名

1点×12

第三問題

20点

(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
作品名	作品名	作品名	作品名	作品名
離洛帖	多胡碑	自叙帖	枯樹賦	張猛龍碑
作者名	作者名	作者名	作者名	作者名
藤原佐理	×	懷素	楮遂良	×

2点×10

第四問題

17点

問3	問2	問1
作者名	① 可	しらゆきのともしわが(か)みはふりぬれど(と)こころはきえぬものにぞ(そ)ありける
藤原行成(2点)	② 尔	
③	③ 春	
④	④	
共	⑤ 万	
⑦	⑥ 志	
夜	1点×5	
⑧ 道		
⑨ 千		
⑩ 水	1点×5	

5点

第五問題

20点

問 4 参考にして生かす方法を共に考え、漢字に用いられている技法に近づけていく。 理由	問 3 鑑蔵印という書画などを鑑賞や収集したことを示すために押す印が多く押されており、作品の来歴や評価の歴史を物語っている。	問 2 本物は石碑に刻まれていて、拓本をとったから白黒が反転している。	問 1	
			カ	ア
			摩崖	国風
			キ	イ
			曲水の宴	和様
			ク	ウ
			節筆	三過折
			ケ	エ
			帖学派	方筆
			コ	オ
			碑学派	円筆
4点	3点	3点	1点×10	